

# 晴耕雨読 28

Vol. 28 2012/11/1

発行：株式会社 建設プロジェクトセンター  
 建設コンサルタント・補償コンサルタント・測量業登録  
 〒869-1234 熊本県菊池郡大津町引水215-1（技術研究所）  
 本社：熊本市/八代支店/合志営業所  
 TEL:096-293-4400 / FAX:096-293-4885  
 E-mail: kenpro@muc.biglobe.ne.jp  
 責任者：中村 秀樹

木葉が赤や黄に色づき、名残惜しそうに赤トンボが陽だまりのある静かな場所に佇む季節となりました。皆様におかれましては如何お過ごしでしょうか？



今年7月12日九州北部を襲った豪雨により、人命・財産・家屋などが被害に見舞われました。山肌を爪でひっかいたような跡が残り、今だに仮設住宅で生活する人の事を思うと心が痛みます。早く元通りの生活に戻る事を祈る次第です。



山都町 棚田の風景(平成24年10月秋)  
 ~山間地の美しい棚田・でも暮らしがとっても話だ~

## 古典の日



平成24年11月1日は『古典の日』と定められました。能・文学・美術・生活文化等に関心と理解を深めるために出来た法律だそうです。左の絵はなんと、山都町在住の98歳のおばあさんが描いた絵です。すばらしい！

## 学

## Rural environment 農村環境

### 平輪農園



さとうきび  
 先日、イベントに収穫したサトウキビを持っていきまし。懐かしむ回魂世代の方々、自然の甘みを初めて味わう子ども達……



懐かししの三輪車  
 ただ今、修理中……



枝豆(\*^\*)

「暑い、暑い」と言っていたのがついこないだの事・・・季節は秋から冬へと移り変わり、農園の野菜も里芋や大根、春菊に白菜など体を温めてくれる野菜に変わりました。毎年大人気の【里芋】はみんな収穫を待ち望んでいます！野菜の育て方などの指導をして頂いているフジコさんから、収穫OKの合図が出ると、みんな待ってましたばかりに里芋の収穫(\*^\*)そして、その場で湯がいて初物を頂きました☆☆☆t/b



さといも コロコロ♪

## 実

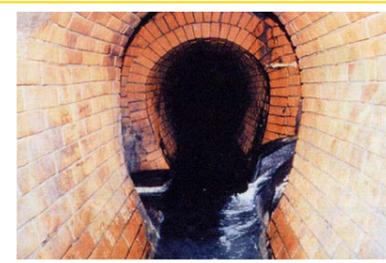
### 平輪農園よりお知らせ↓↓↓

★イベントに参加します★  
 平成24年11月11日(日)  
 OPEN:11:00~16:00迄  
 場所:南阿蘇(narayana宅)  
 【しあわせマシエ】と言うマシエ…青空市に出店!!  
 詳しくはHP【平輪農園】検索!



子ども~お年寄り(?)まで  
 ハッスル♪ハッスル♪

## Civil Engineering 土木文化



水の環境を守る下水道は、明治17年(1884年)頃にはじめて造られ、現在、日本では7割弱程度が普及されています。下水道の役割は雨水・汚水処理だけでなく、汚泥を再利用した肥料づくり、消火ガスを利用した発電、「冷暖房」用の熱源への有効活用、清流復活等、さまざま、私達の日常生活に欠かさない存在です。これからの下水道整備事業においては、①近年の集中豪雨による浸水や地震を回避する防災対策、②水質汚濁の改善(合流式下水道)、③老朽化施設の長寿命化対策等の課題が考えられます。特に、下水道施設の耐震化を図る「防災対策」を着実に推進するとともに、施設が被災した場合でも、機能を確保し被害の最小化を図る「減災対策」の両立が今後さらに重要と考えます。 t/m

## 伝

↑↑日本最古の下水道【明治17年(1884年)東京の「神田下水」】

### ◇ 伝統を守ること

身近な歴史と文化  
 私の地元では、8月8日「御八日踊り」というお祭りにむけて、子供達が踊りの練習をします。約2週間、近所の大人たちが踊りの先生になり、代々続く踊りを子供たちに教えます。この踊りの由来は、永禄八年(1565年)に地元城主が謀殺され、それを機に悪疫が流行したので、当時の人たちはこれを祟りとし、その霊を慰めるため神社に御霊を祀ったことが始まりで、現在では生活改善や新暦の生活風習のため、近年は新暦の8月8日に実施するようになったそうです。子供ころには気付かなかった、親から子へ伝えられていく文化が他にもたくさんあると思うと、もう少し視野を広げなければと最近になって気づきました。 t/y



■後記：熊本県内には、写真や絵に残したくなる風景や美味しい・懐かしい郷土料理等があります。まだまだ、気をつけて見ると素晴らしい場所や歴史の重みを感じ空間や文化などが沢山残されています。今後も皆さんへ地域の良さを紹介していきたいと考えています。

## Human Architecture 身近な環境と暮らし

平成24年もあと2ヶ月ちょっととなりました。旬を過ぎると(年を重ねると)一年の早さが増して感じられます。今回は、旬な話題を二つお届けします。



【秋の旬話：その1】  
 日本は四季という自然感の中で紅葉の時期を迎えようとしています。植物は、春~夏の陽を葉っぱ一杯に浴び、この時期光合成により創りだした栄養を根に下ろして貯えます。来春の芽吹きと成長の準備をする時期なのです。9月下旬から10月上旬にかけて、高千穂地方や五ヶ瀬地方では、山の斜面に密生した雑草を刈り取る農作業が行われます。まだ青さの残るマカヤ(ススキ)などを、背丈を越す大鎌で刈り、天日で乾燥させ貯蔵します。この一連の作業が刈干しと呼ばれ、宮崎の刈干切唄は有名なところ。この刈干切は、栄養が根に移る前、最も豊富な栄養が葉に凝縮された時期に収穫されることが肝要で、栄養価の高い牛馬の餌となるような知恵が伝わっているものです。 a/t



↑ 菊の被綿(きせわた) ↓



【秋の旬話：その2】  
 秋の花と言えば菊です。馬のレース：菊花賞もあります。皇室の紋章である菊は、まぎれもなく日本を代表する花といえます。旧暦の9月9日は、現在の歴では10月にあたり、重陽の節句と言われてます。中国では、奇数は縁起のよい陽の数とされ、一番大きな陽の数である九が重なる9月9日を、「重陽」として節句のひとつとしてきました。重陽の節句は別名、菊の節句とも呼ばれます。宮中行事では、紫宸殿に集まり、詩を詠んだり菊花酒を飲んだりしてけがれを祓い長寿を願っていたようです。また、菊の被綿(きせわた)といって、重陽の節句の前夜に、まだつぼみの菊の花に綿をかぶせて菊の香りと夜露をしみこませ、宮中の女官たちが使ったとも言われています。・・・あなたもお試しいかがでしょうか？ a/t

### 豊後街道

豊後街道7里木~二重峠をさるく



## 花

豊後街道7里木~二重峠間(大津町)は、ルートが定かではなく、徒歩困難とされています。今年10月、阿蘇市外輪山トレッキング関連団体と連携してルートの確認を行った。上の写真は加藤清正公によって開かれた街道の一部ですが、街道は歩道代として、また、物と人が行きかう道として、守り続けられてきました。しかし、近代化に伴って街道も忘れ去られた存在になってきました。しかし、街道ファンのマニアにとっては九州の玄関口である豊後街道はロマンの道であり、トレッキングコースを楽しむ道として注目されています。 h/n



ムラサキシキブ

蘇陽町で見かけた紫色の実を有した美しい花(左写真)ムラサキシキブです。美しさに感動!